

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ☐ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地区の広報のスペースをお借りし 周知をいただきたい。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	前出の通り 東町の広報のスペースをいただき地域の方への周知を進めたい。前年度は社協の地域担当の職員に運営推進会議に参加いただいた。今年度は民生委員の方との交流を持ちたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議での地域代表者との接点を大切にし情報を頂いている。	○	東町公民館前広場の整備、有効活用に向け自治体への働きかけなど 共に行って行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をするプロセスの中で自らの課題を発見できる良い機会である。職員ひとりひとりが自分の事として業務を振り返ることができ、入居者本位の対応を考えている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ざっくばらんな雰囲気の中で評価の結果や日常の報告をし、ご家族からの意見を出していただき、知見者からのアドバイスを参考に行っている。又、内容は職員ミーティングで報告行う。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	馴染みの市の職員に運営上の相談等、気軽にのっていただき助言を生かしている。心強い味方となっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業に関しての学習会、および資料の配布を行い啓発を行うように計画しているが身近に例がないためあとまわしになりがちである。		改めて重ねての学習機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護の学習を行い 絶えず自らのケアを見直し職員相互の確認も心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退去の際は文書と一緒に十分な説明を行い、入居後も面会の際など近況報告と一緒に質問に答えている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と職員は普段よりざっくばらんな関係を築き。又、介護相談員の方よりの情報を共有できるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム報を発行。普段の暮らしの報告や必要な連絡を行っている。利用者の体調変時、お小遣い残少時、衣類寝具入れ替え必要時等には居室担当が連絡行う。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	馴染みの職員、又は居室担当に伝えていただけるように声掛けしている。運営推進会議でも希望、苦情を伝えていただき、苦情相談窓口の案内も行っている。頂いた苦情は職員ミーティングで議題とする。6ヶ月毎のミニカンファレンスで具体的な希望の聴き取りを行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回定期的にミーティングを行い普段の気づきに基づいて討議している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況の変化に合わせ 勤務時間の変更を行い細やかな介護が出来るよう調整、業務改革を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の一身上の理由で離職が数名続いたが 静かに去る努力をする。必要な利用者には説明をし挨拶行う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護の研修に積極的に参加したり、資格取得のための研修への参加を呼び掛けている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等に参加している。	○	管理者に限らず希望する職員には参加の機会を作りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務シフト作成前にできる限り休みの希望を聞き取っている。またストレスを溜めこまないよう管理者等に相談したり 勤務時間以外の食事会等でストレス発散できる機会づくりをしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ステップアップのための資格取得の機会を把握し、個々に諮っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実際としては家族からの相談・希望が先行して利用となることが多い。入居後は過干渉にならない範囲でできるかぎり寄り添い 気持ちに近づく努力を行う。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに数回話し合いを設け不安の軽減、希望の受け入れができるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望を聴き取りし、一番必要なサービスを提案するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院や他施設からの移動がほとんどで 急いでおられる。そのため 見学後 数日での入居となるケースが多い。	○	緊急性のない方で 数回通所的に来て馴染んでもらうことが可能であればそのような段取りを取りたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族のように接し常に利用者の立場に立ち介護するよう心掛けている。また、職員よりお願いして作業を手伝っていただいたり昔ながらの料理法や、行事のやりかた、冠婚葬祭の対応方法等を教えていただいたりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	約二ヶ月ごとの行事や面会時に様子報告を行い共に支えあいながらケアする雰囲気を作よう心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は本人と家族がゆっくりとした時間をもてるよう居室にお茶を準備し過ごしていただいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の特別な依頼がない限り面会の制限もなく自由に馴染みの方々と会えるようにしている。また、本人との談話の中でこれまでの生活を思い出していただくようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士の席の配置に気をつけている。又、世話好きな方の力を拝借し支えあう関係をつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院、他施設への入所の場合は様子確認に面会を行っている。	○	退所後も継続的な関わりが必要な場合は働きかけていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時や家族からの申し出の際に把握に努めている。本人の希望が優先と考えられる場合は本人本位としている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人よりの聞き取りや入院施設等からのサマリー、在宅時のケアマネージャーからの情報で把握するよう努めている。	○	居室担当職員を中心に 面会に来られる家族や親戚などからの情報をいただき より細やかな把握をしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録や申し送りノート、訪問看護師からの情報を通し総合的な把握ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の希望を聴き取り、居室担当者・ケアマネ・管理者とともに意見交換を行い優先されるケアを検討している。	○	可能な限り半年毎のカンファレンスを持って行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月毎のモニタリングを行って。また必要に応じ、見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の生活を記入行い、又個々のケアプランが見え易い書式にしている。勤務帯交代時の申し送りが必要項目は確実に共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ柔軟な対応ができるよう心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの美容師さんに整髪を依頼し安価でしていただいたり消防署からの防災指導をうけている。	○	地域の民生委員さんとの交流を持ちたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者やケアマネジャーと施設の空き状況等の情報交換を行い必要に応じてサービス利用のための支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ地域包括支援センターとの協働の機会はないが空き室確認の連絡は度々いただいている。	○	必要に応じ情報交換を行って行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を確認し、希望の医療機関を利用している。当事業所は受診する医療機関との情報の交換を行っている。歯科は往診に来ていただいているが他の専門科受診は家族と一緒にいられる。家族が遠方在住の方は職員が対応する準備がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同じ法人内にクリニック、病院があり常に相談、指示を仰ぐことができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所内看護師や同法人内のクリニック、病院、訪問看護の看護師と情報交換を行い介護方法のアドバイスも受けながら 利用者の健康管理を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	体調不良時にはほとんどの方が同法人内の病院に入院される。早期に退院し帰ホームされることが多い。他医療機関入院の場合はソーシャルワーカーと連絡を取り合い、退院後の方向を家族とともに考える。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階で医師、看護師より病状の説明を行い 今後のありかたについて話し合っている。また並行して 共通した対応を行うため職員間で情報を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	隣接の病院・クリニックに随時状況を報告し医師の指示の下変事に対応している。当事業所職員の総合的な力量を常に上司である医師に相談行い終末期の対応は利用者個々で異なってくる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えが実現する方の場合には家族、転居先の介護支援専門員などへ情報を提供し円滑に生活が推移するべく協力行う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の尊厳を尊重するような対応を心掛け、職員間相互でも確認し合っている。また緒書類に関しては、入所時に交わした個人情報保護関係書類に沿った取り扱いをしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合った対応で会話・支援を行っている。利用者の希望を受容するよう心掛けている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り個々の利用者の希望に合ったケアを心掛けているが業務に追われ職員の都合が優先されることが度々ある。	○	職員が気持ちも時間も余裕が持てるような職場環境がつけられるよう ミーティングにて繰り返し討議し業務改革して行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの理容・美容のお店がある場合は家族に依頼。特にない場合は 安価でして下さる美容師さんに出張を依頼し男性も含めほとんどの利用者がカットしてもらっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を生かし献立に工夫を行っている。入居者の身体的レベルでは準備・片付けができないことが多いが昔の食事づくりの工夫等教えてもらっている。料理の得意な利用者には味付けをしていただいている。	○	好みのものの聞き取りを行い献立に取り入れて行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医師の指示のもと嗜好への支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に応じた時間の間隔や紙おむつの種類選択、声の掛け方など配慮し 排泄介助・支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の長さは個々の好みに合わせるようにしている。気持ちとタイミングを尊重し若干の時間の融通を図るよう心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	決められた一日の流れにはめこむことなく体調や気分・希望を考慮し休んでいただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	可能な方にはできる限り役割を持っていただけるようケアプランにもあげている。また、気晴らしや楽しみについては年間行事に取り入れたり家族への協力も呼びかけている。	○	生活歴や個別性を大切にしたアセスメントを行い できる力や得意なことを発掘して行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出る際には職員の見守りのもと支払いしていただく。一定金額を本人によって所持・管理をしている方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所専用の車両を所有していないため近所に限り買い物や散歩に付き添い出かける。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の支援をいただき できるかぎり本人の希望を叶えたい。またホームの年間行事では同一法人の老健施設のリフト車を借り 家族と共に遠足、買い物へ出掛ける。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に居室担当者が本人の希望や想いを把握し対応している。居室担当者不在の時も希望があれば電話取り次ぎ行っている。	○	レクリエーション・リハビリの一環としてハガキでの近況報告通信をすすめていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	保安上面会時間を設けているが気軽に訪問いただけるよう呼びかけている。面会時にはお茶を提供しくつろいでいただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する学習会を行い拘束しないケアを目指している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階下への主な移動手段がエレベーターで利用者単独での操作は危険を伴うためエレベーターには施錠してある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者一人ひとりの居場所を常に確認している。個室に居られる時にもさりげなく安否確認行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品(安全かみそり、洗剤類など)に対しては取り扱い管理の仕方などスタッフが統一して行い危険のない様、気をつけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時連絡方法も壁に掲示し常に全職員対応できるマニュアルがある。事故防止、発生時についてもミーティングにて対策を話し合い実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師の指導により対応方法の学習・確認を行っている。	○	重ねて訓練・研修を行ってきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	当事業所単独での防災訓練を消防署、業者立会のもと 年間二回実施。隣接の病院施設との連絡橋が1月に完成。病院側からの協力が得易くなった。又 運営推進会議で地区代表者と災害時対応を繰り返し話し合っている。	○	普段から職員各々が災害時の対応を繰り返しシミュレーション行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族との面談や運営推進会議等で 起こり得るリスクや対応策について話題にしている。	○	利用者個々のリスクについて職員間での再確認と家族への説明をして行きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員一人ひとりが利用者の「いつも」を知っておけるよう申し送りを行い、異常を察知できる努力をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理のもと、薬の服用が確実にできるよう努めている。	○	ひとつひとつの薬の特徴や利用者毎の配慮すべきことを学習する機会をつくりたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	十分な水分摂取や繊維の多い食材の利用を心掛けている。また体操、歩行をしていただくよう声掛けを行っている。3日以上排便ない場合は看護師・医師に報告し指示によって服薬等でコントロール行う。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、自力で口腔ケアができない方には介助行っている。義歯は夜、必ず洗浄後に漬け置き消毒剤にて消毒行う。又、協力歯科医に随時相談行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食状況の申し送り、記録を行い食事の進まない利用者の場合医師に上申を行いエンシュアリキッド等処方していただいている。本人の食思を考慮しながら形態に工夫を行い、出来る限り口腔摂取をしていただく努力をしている。。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成し、対応を統一している。インフルエンザ流行時期には入居者、職員全員予防接種を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板等は毎日消毒を行い 食器洗浄後は乾燥機を使用し清潔を心掛けている。また毎日食材の買い物をし必要以上に買い溜めることなく新鮮な食材を使っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに季節の花や緑を置きくつろげる空間をつくる努力を行いケアの内容を紹介するための掲示物や職員紹介を貼る当ホームを知っていただけるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に絵や花など飾り、利用者を楽しんで頂いている。また、一人で入浴を希望する利用者にはゆっくり入浴いただける様配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全個室となっており、また共同でゆっくりと過ごせるスペースもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れたもの、思い出の物、家族の写真等を持ち込んでいただくよう依頼している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中は窓を開け外気を取り入れている。冷暖房は利用者に適した温度を保つよう心掛け、利用者にその都度確認を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、洗面台、トイレ等車椅子でも使用し易くなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の確認のため、意志確認の上部屋の入り口に名前や写真を掲示したり、トイレ入り口に表示を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周がコンクリートの駐車場のため玄関に季節の花等を植え潤いの空間づくりの努力をしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

病院に隣接している特性を生かし 利用者体調異変時には即座に受診・上申が可能である。又 季節の行事を取り入れ、都市型の施設ではあるが季節を感じて頂いたり、その人に合った形態で食事を提供するなど個別性を尊重する努力をしている。